

島根県 ICT 総合戦略

2022 - 2026 年度
令和4年4月 島根県

概要版

島根県では、人口減少・少子高齢化をはじめ、労働力人口の減少、雇用の創出、中山間地域・離島など条件不利地のハンディキャップの克服など、多くの課題を抱えており、これらの解決の手段としてICTの利活用を戦略的に進めていきます。

島根のデジタル化を 推進するための基本方針

- 県民の利便性向上と行政の効率化
- ICTの利活用による島根創生の推進
- デジタルデバイド対策



ICTの利活用による島根創生の推進

ICTの活用によって、場所や時間に関係なく同じようなサービスを受けることができ、また、企業の生産性向上や新商品・新サービスの開発による雇用創出・所得向上などが期待できます。地域の実情に応じた課題解決や魅力向上のため、積極的にICTの利活用を進めます。

魅力ある農林水産業づくり

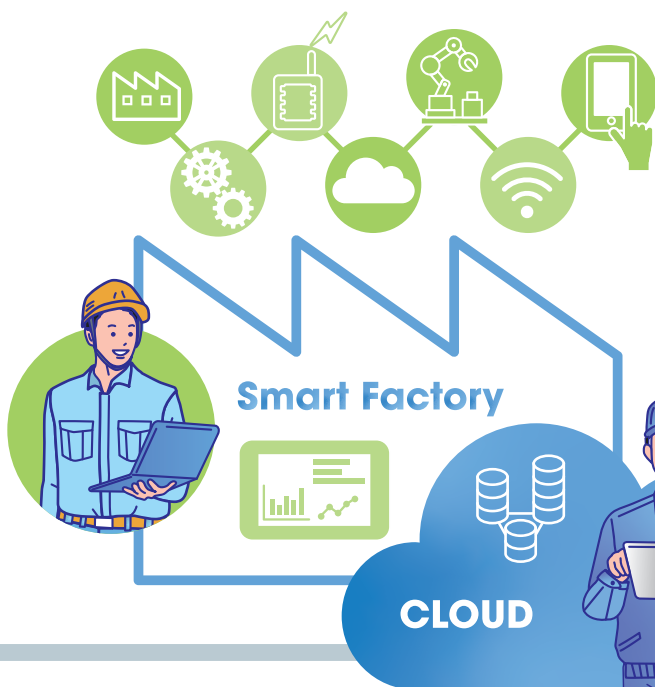
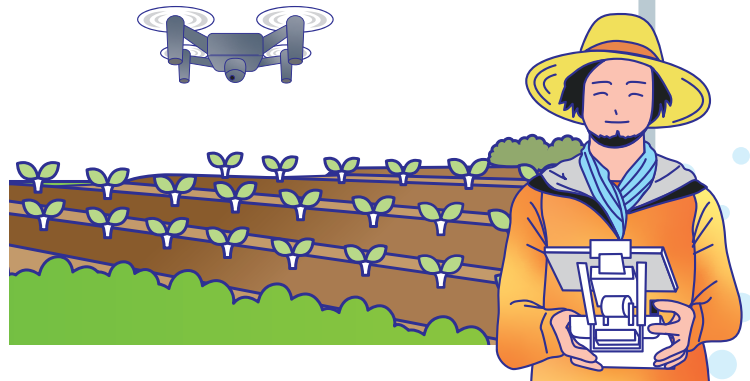
スマート農林水産業^(※)等の推進により、生産性や所得を向上させ、担い手の確保・育成につながる魅力ある農林水産業づくりを進めます。



(将来のイメージ例)

農業機械の無人化などにより、少ない労力で効率良く作物をつくれるようになります。また、天候などのデータの活用により、多収穫・高品質生産ができるようになり、経験の浅い人でも取り組みやすくなります。

※スマート農林水産業…ロボット、AI、ICT等のデジタル技術を活用し、超省力化や高収量・高品質生産等を可能にする新たな農林水産業のこと。



力強い地域産業づくり

企業のデジタル設備・システム導入による生産性の向上や、デジタル技術を活用した新商品・新サービスの開発などを支援します。また、SNSなどによる観光地情報の発信や、観光地でのキャッシュレス決済の普及などに取り組みます。



(将来のイメージ例)

データをもとに見える化された工場へと変わっていきます。品質管理や生産性の向上が図られ、また、各拠点間を繋ぐことで様々な情報の共有が行われます。

人材の確保・育成

企業のテレワーク導入や、建設分野へのICT機器の導入等による業務の効率化など、魅力ある職場づくりを進めます。また、デジタル利活用に必要な知識・技能を身につけるための職業訓練の実施など、人材の確保・育成を進めます。

結婚・出産・子育てへの支援

コンピュータマッチングシステム「しまコ」の機能充実や、デジタル化した「こっころパスポート」の利用促進により、結婚・出産・子育てを応援します。

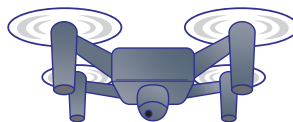
中山間地域・離島の暮らしの確保

「小さな拠点づくり^(※)」など、中山間地域・離島の地域課題解決の取り組みが進むようICTの利活用を進めます。



(将来のイメージ例)

買い物に出かけることが困難な住民のために、食料品や日用品を配達する仕組みを構築し、ドローンが商品を自宅まで届けてくれます。



※小さな拠点づくり…中山間地域において、公民館エリアを基本に、住民同士が議論をして知恵を出し合い、地域の課題解決に取り組んで、安心して暮らすことのできる環境をつくること。

新しい人の流れづくり

オンラインでのイベント開催や移住相談などによるUターン・Iターンの促進や、地域に関わりたい方と地域をマッチングするサイト「しまっち」などによる関係人口^(※)の創出・拡大を進めます。

※関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多用に関わる人々のこと。

保健・医療・介護の充実

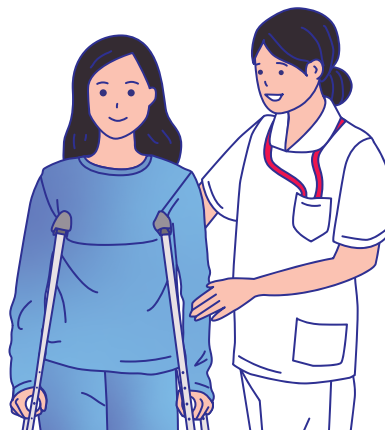
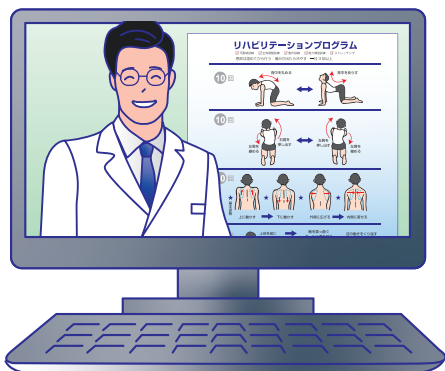
「まめネット^(※)」の機能充実・普及や、介護ロボット等のICT利活用による負担軽減・業務効率化など、効果的で質の高い保健・医療・介護のサービス提供を進めます。

※まめネット…患者の同意の下、診療情報等の閲覧、診療予約、画像診断などの様々な機能を医療機関、訪問看護・介護事業所等が活用する「しまね医療情報ネットワーク」の愛称。



(将来のイメージ例)

複数の病院・薬局で受けた治療や薬の情報が共有され、より正確な診断や処方につながります。また、入院時や介護サービスを受ける際など、必要な情報がつながりどこにいても安心して医療・介護サービスを受けられます。



地域共生社会の実現

障がいのある方へのICT機器に関する講習会や訪問指導、利用相談等の取組を充実させることで、意思疎通や情報利用を支援し、社会参加を進めます。



教育の充実

「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICT学習環境の充実を図り、児童生徒一人一台端末の活用等、学習におけるICTの活用を進めます。



(将来のイメージ例)

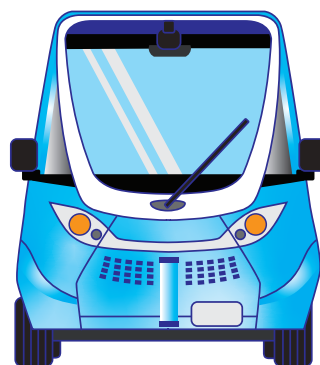
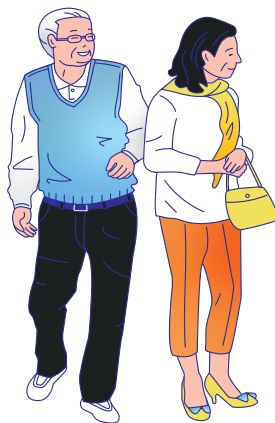
学習履歴、テスト結果などのデータを分析することによって指導方法の改善など、個人に合った学習の選択が行われます。

生活基盤の確保

AIやビッグデータの活用などの大量のデータ流通などを支える基盤である5Gの整備に向けた取組を進めます。また、地域の実情に応じて、定額タクシーやMaaS^(※)など、ICTを活用した地域生活交通確保の取組を進めます。

(将来のイメージ例)

採算が厳しく、乗務員不足が続く中でも、利用者のニーズに柔軟に対応できる自動運転サービスなどを活用し、必要な交通を確保していきます。



※MaaS…「Mobility as a Service」の略称。バス、電車、タクシーなどの交通機関を、ITを用いてシームレスに結びつけ、効率よく、かつ便利に利用するシステムのこと。

防災対策の推進

道路の異常情報を通報できる「パトレポしまね」、土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域を示す「マップonしまね」、防災情報を提供する「しまね防災メール」などの普及促進により、災害情報の収集・提供・共有を進めます。

県民の利便性向上と行政の効率化

県民の利便性向上や県民サービスの維持向上を図るため、ICTの積極的な利活用を進めます。

行政手続のオンライン化等による県民の利便性向上

いつでもどこでも必要な行政手続をオンラインで行えるよう、電子申請サービスの利用業務拡大などに取り組みます。



(将来のイメージ例)

スマートフォンひとつで、いつでもどこでも申請手続きが完了できます。

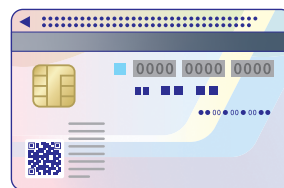


データ活用による行政サービス向上の推進

データを有効活用して施策立案・効果検証を行い、質の高い行政サービスを提供します。また、行政データの公開(オープンデータ化)を進め、民間サービスの創出につなげます。

効果的な情報の提供、マイナンバーカードの普及・活用による県民の利便性の向上

SNSなどを活用して効果的に県政情報や観光情報などを発信します。また、マイナンバーカードの利便性や安全性の周知など、普及や活用の促進に取り組みます。



デジタル化による行政の効率化

AI^(※)やRPA^(※)等を活用して、業務の効率化を進め、県民サービスの充実、向上に取り組みます。

※ AI(エーアイ)…「Artificial Intelligence」の略称。学習や判断などの機能を備えたコンピュータシステムのこと。人工知能。

※ RPA(アールピーイー)…「Robotic Process Automation」の略称。定型的な作業について、人間に代わってAI、機械学習等を含む認知技術を活用して自動化すること。

デジタル人材の確保と育成

全職員のICT利活用スキルを向上させ、行政のデジタル化を進めます。



市町村との連携による県民の利便性向上

県と市町村との連携を一層強化して自治体DX(デジタル・トランスフォーメーション)の取組を進めます。

デジタルデバйд対策

年齢、障がいの有無、性別、国籍等を問わず、誰ひとり取り残さない形で、全ての県民が不安なくデジタル化の恩恵を受けられるよう取組を進めます。

デジタルデバйд対策

デジタル以外の手法も残しつつ、デジタルでの手続きをサポートする仕組みづくりや、スマートフォンなどデジタル機器の操作研修を行う講師の育成等に取り組みます。

また、トラブルや犯罪被害を防ぐため、意識向上のための情報発信など普及啓発活動に取り組みます。



(将来のイメージ例)

ICTを日常的に活用して活動範囲を広げていきます。例えば、SNSを活用し、蓄積した知識・経験を生かした高齢者と若い世代との交流や、地域づくり等の社会参加を進めていきます。

